

中国語教育学会会報

第2号(通巻27号) 2002年9月17日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会 〒156-8550
東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部中文研究室内
郵便振替口座 00110-1-191152

3月に開催された全国中国語教育協議会で、中国語教育学会への移行が議決され、学会としての初仕事が学会発足のPRと新規会員の勧誘になった。前号でもお伝えしたように、すでに7月初に日本中国語学会の会員あてにご案内をお届けした。時期が夏休みにかかったことと、語学会員については紹介者不要の旨を明記しなかったことで、入会申し込みの出足に影響が

あったようだが、9月初の段階で70名に近い新規会員を迎えることができた。なお、紹介者を得られない、とのお尋ねを多くの方からいただいているが、事務局から勧誘のご案内をお送りした分については紹介者不要である。

なお、これらの作業が一段落したところで第1回理事会を招集して、中国語教育学会の体制作りと活動方針の策定にとりかかる。

SSS 10月・11月の学会活動(お知らせ) SSS

10月例会ご案内

日時 10月12日(土) 14:00~16:30

場所 国際文化フォーラム会議室

新宿駅西口から都庁方向に徒歩約10分、センチュリーハイアットホテルに隣接の第一生命ビル26階。

人と題 胡興智(日中学院)ほか、小溪教材研究グループ・メンバー (敬称略)

「高校生のための中国語教科書」(仮題)

高校における中国語教育は、着実に広がりを見せていますが、高校生のための教科書はまだ開発が進んでいません。最近、小溪教材研究グループの方々が国際文化フォーラムの編集協力の下に、約1年をかけて《高校生からの中国語》という新しいテキストを刊行されたので、作成に携わった先生方に中国語教科書の諸問題を中心に、高校における中国語教育をめぐるお話しいただく予定です。

※会場の収容定員の関係があるため、必ず葉書で事務局に参加申し込みをしてください。事務局の宛て名は会報題字の右側をご覧ください。定員超過の場合のみ、お断りのご連絡を差し上げます。大幅に定員超過の場合は改めて別の日程で追加開催を検討します。

11月例会(予告)

日時 11月9日(土) 14:00~16:30

場所 10月と同じ。人と題は交渉中。詳細は後日、葉書で全会員に通知します。なお、当日午後5時半から場所を移し、第1回理事会開催の予定です。理事の方々には、別途、詳細をご連絡いたします。

第七届国际汉语教学讨论会

輿水 優〔日本大学〕

3年ごとに開催される国際中国語教育シンポジウムは、今回で7度目になる。1985年に第1回が開かれ、その2年後、1987年の第2回以後は3年ごとの開催になっている。そのころ、台湾で同様の国際シンポジウムが始まり、それを追いかける形で第1回の呼びかけがあったように記憶している。当初から北京語言学院が実質的に主宰していたが、第1回の大会で語言学院が世界の中国語教育の大本山になり、情報発信のセンターになってほしい、といった要望が、とりわけ国外からの参加者に強く、第2回の際に「世界漢語教学学会」の成立を見ることとなった。それ以来、同学会が主催するシンポジウムとなり、北京語言学院が総力をあげて運営してきた。会場も第5回まではずっと北京であった。しかし、早くから国外での開催も望む声があり、第6回はドイツのハノーバー市が会場となった。ドイツ語圏中国語教師協会を主宰するDr. Kupferは、シンポジウムの学術的な水準を高め、ヨーロッパ各国からの参加の便を考えると、国外での開催が必要として、一度はドイツ国内の資金調達で頓挫したが、ついに99年の開催にこぎつけたのであった。しかし残念ながら、より学術的なシンポジウムに、という願いは十分には達せられなかった。もともと、第1回の主催者のうちに國務院華僑辦公室が加わっていたことから知られるように、“官方”の息がかかっており、華僑の里帰り親睦会的な雰囲気もあって、学術面のレベルアップを促す声には私も同感であった。経費の点から考えれば、この種の催しは国家が政策的に力をそそいで当然とも言える。3年に1度のお祭りとなっても仕方がない。その意味で、ドイツにおける第6回から目立って来た“官方”の参与が、本年の第7回では「世界漢語教学学会」の影が薄くなって、むしろ“国家对外汉语教学领导小组办公室”(略称:漢办)が前面に出ることで、はっきりした。漢办自身がオフィスを語言学院から移し、世界漢語教学学会も元語言学院長の呂必松氏が会長を退く、といった転機の大会でもあった。

もう一つ、今回とりわけ印象が強かったのは参加者の世代交代である。従来は中国語の研究と教育の領域で著名な中国の学者が数多く、会期を通じて参加されて、3度の食事で同席することも少なからず、夜間は会場のホテル内のあちこちで談論の輪が出来る、といった交流が出来た。しかし、中国国内の大学における60歳定年制が徹底したのか、参加者がすっかり若返り、反対に国外からの参加者は顔なじみが多く、新人が少ない印象を受けた。国内の参加者で大学院を出たばかりの若手から随所で話しかけられたが、60~70代のベテランとはあまり顔を合わせなかった。今後、各国からも若手がもっと参加しやすい方を講じる必要がある。経費軽減をはかること、特にPRをすること。3年後の次回は当学会もPRをしたいと思う。

今回のシンポジウムには、おおよそ国内から250、国外から250の参加があり、これまで以上の盛会であった。実質的な運営に当たった復旦大学は手堅く手配をしていた。ただし、北京との連携不足で、参加者名簿の配布がなかったり、不満も残った。38の国と地区から参加と伝えられていたが、実数は分からずじまい、日本からの参加者数すら把握できなかった。今回の会期は8月2日が開会式と全体会、3日と4日が分科会、5日が総括と閉会式、6日が遊覧となっていた。毎度のことであるが、国内参加者の報告論文は原則的に審査を経ているが、国外参加者についてはフリーパスのため、玉石混交のきらいがある上に、分科会編成の苦労はあるにせよ、報告者の交通整理が不十分で、言いつ放しになり勝ちな点は、改善が求められる。例えば、日本人の中国語学習における問題点を具体的に取上げた報告が、国内の参加者にも多かったが、これを一つにくくり、日本人参加者も集めて話し合うなど、テーマ別の編成を弾力的に考えてはどうか。相変わらず、語彙語法といった6組の分科会が2日間にもわたり開かれた。報告者自身が、いつ、どこで発表できるのか事前には不明である。全体会と分科会の振り分けについては、全体会報告者に予告をして、問題提起を含む、意義のある報告を委嘱すべきである。私自身も現地に着いてから、全体会に割り振られていることを知り、用意した資料の絶対的不足を補うことが出来なかった。全体会では各国の参加者から12名が発表をした。私は前号会報に掲載した、話しことばと書きことばの問題を取り上げ、会話教科書の限界について見解を述べた。この全体会では、人民大学の李泉氏が、中国語教育の質的向上を図った、現場での問題点を取り上げ、新たな知見ではないが、実際的な内容で興味深く感じた。』

前回のシンポジウムで北京大学の陸儉明氏(今回、世界漢語教學學會の會長に選出された)が、コトバの基礎研究が必要であることを説いたが、今回の李泉氏はコトバを教えることについて研究が必要であることを多方面から説いた。以下、その報告の一節を掲げることにする。

对外汉语教学理论和实践的若干问题 中国人民大学对外语言文化学院 李泉

2. 4 问题之三: 忽视教学语言的可接受性

教学语言的可接受性是说, 教学语言本身应难易适度、规范有用、语气恰当。但是, 从学习者的角度来看, 我们的课堂教学语言相当程度上存在着不可接受性。

(2) 不良的教学语言:

A. 这个、这个……; 就是说, 就是说……; “啊, 在山上, 啊, 在山上, 啊, 不是在家, 不是在家里丢的。”

B. (这句话的意思) 我感觉是……, 我觉得好象是说……, 应该是这个意思吧……

C. 懂了吗、明白了吗、你听懂了吗、都听懂了吗、不明白的举手!

D. “对! 很好!” “呕, 好极了! 回答得真对!” “铃木的汉语真有进步, 老师太高兴了!” “下面呢, 老师给你们留几道作业, 明天, 你们都交给老师。”

E. “噢, 大家一定要注意语音问题”、“韩国同学的语调也有些问题, 你们一定要注意”、“××在这里表示强调”、“××表示转折的语气”……

F. “韩素珊, 你去过动物园吗?” “你怎么穿得这么少, 不冷吗? 可别感冒喽!” “感冒你得休息, 多喝水, 你房间里有热水吗?”

G. “你们这个班, 是我教过的最差的班级”、“别人都会怎么就你不会?” “怎么, 连这句话也不懂, 一年级就学过了。”“你们的基础也太差了!” “你怎么不问‘水灵的小伙’可不可以说? 为什么单问‘水灵的姑娘’能不能说? 哎, 大家说说唉, 他就对姑娘有兴趣?”

其中, A 类纯粹属于个人的不良语言习惯; B 类系不确切的教学语言; C 类语言不是绝对不能用, 但一定不要成为口头禅和“习惯动作”, 尤其要注意语气语调不能太生硬; D 类是学生“深恶痛绝”的教学语言, 这种拖着长腔、用夸张性的语调进行肉麻式的表扬, 还不如不表扬, 酸溜溜、哄孩子式的教学语言, 学生普遍表示“受不了”; E 类教学语言几近废话: “注意哪一个语音, 注意什么问题, 怎么注意?”、“何谓强调? 强调什么?”、“转折的语气又是个什么东西?” 则语焉不详。这类连老师都说不出、说不准的问题或语法术语, 学生怎么能确知其义。把这类摸棱两可的语言输入给学生只有坏处没有好处。F 类语言不一定都出现在课堂上, 也见于师生平时交往中。这类语言往往也令学习者大伤自尊、难以忍受、甚至极度反感。认为说这类话的人, 是把他们“孩子化”甚至“弱智化”。上面例子中的那位韩素珊来自德国, 她听到这样的问话以后非常生气, 回答说: “你一直把我看成小孩子, 是不是? 告诉你, 我已经 22 岁了。请不要问我这样的话!” 然后“愤然”离去。——这是课间休息时发生的一次不愉快的对话, 令在场的人都很尴尬。说“F 类语言”的中国人实际上并没有恶意, 顶多是“好心办了错事”。而外国学生特别是某些个性较强西方学生, 倒显得有点“无理”和“没良心”, 可他们却认为“问我去没去过动物园? 当然是把我当成小孩子了。”“连感冒都不知道休息和吃药的人不是弱智又是什么?” G 类是最可怕、最不良、也是最可恶的教学语言。不论教师是否意识到, 这类语言对学生的打击都是“毁灭性”的, 有的甚至是十分危险和不堪设想的。对学生的批评和教育是应该的、允许的, 但应该是善意的; 挖苦、讽刺和打击性的语言, 无论是否出于有意, 都是不允许的。

会費納入について

前号の会報に添えて会費の振り込み用紙をお届けしました。すでに多くの方が納入してくださり感謝しております。未納の方々も早めにお振り込みのほど、重ねてお願い申し上げます。新しい会則による年会費は、個人・団体とも5,000円です。口座番号も新しくなりました(00110-1-191152)ので、ご注意ください。なお、昨年度までの中国語教育協議会の会費に未納分がある場合、別途ご請求申し上げます。今年度の予算等、会計事項は体制確立後に理事会の追認をお願いする予定です。

SS 事務局だより SS

◆◆学会の立ち上げに必要な、会費振り込み用の口座開設が、なかなか厳しい。協議会設立時とは雲泥の差。郵便局の窓口で会則を逐条チェックされ、役員名簿も提示させられる◆◆日本中国語学会の会員に教育学会入会案内を送るため、宛て名ラベルの提供を受け(有料)、1,000通にも及ぶ発送作業をするのは一仕事であった。助っ人になってくださったT会員、U会員に感謝◆◆月例会の会場提供のお申し出が1、2の大学からあった。交通の便をにらみ、今後の計画に組み入れる。一層のご協力を◆◆

研究誌・会報掲載原稿・研究ファイル等の投稿についてお願い

学会活動の要(かなめ)として、今年度末に研究誌の発刊を予定しています。原稿の公募は次号(11月)の会報で発表します。なお、随時、下記の投稿を受け付けています。

会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデアなど ②教学実践記録(教案なども含む) ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本(外国語教育の分野で、紹介・書評など) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。1編1千字以内。ワープロ使用を原則とする。手書きの場合は400字づめの原稿用紙使用。締切りは特に設けず、採否は事務局に一任とし、随時掲載。

《研究ファイル》原稿 会報(年間5~6回発行)とは別に、とじこみ式の「研究ファイル」を不定期に刊行する。中国語学、中国語教育に関する研究論文や外国語教育に関する主張・論説を歓迎。字数は400字づめの原稿用紙に換算し、20~40枚程度。形式については既刊のファイルを参照のこと。投稿は理事若干名の審査で採否を決定。原稿はワープロに限り、用紙に印字したものにフロッピーを必ず添付する。ファイルの形式はWindowsで作成されたもの(Mackintoshは不可)とし、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもの。「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も可。随時受け付け、個別に刊行。投稿はすべて返却しない。

新書紹介

高等学校外国留学生汉语教学大纲

外国人留学生に対する中国語教育の「学習指導要領」ともいべき本が漢办(p.2参照)によって、短期強化(4週、8週)、長期研修(半年以上、3年以下)、漢語言專業(本科、4年以上)の3類に分けて公刊された。別冊には、段階別の漢字表、語彙表、文法項目表等が用意されている。会員の要望があれば、今後の月例会や会報で内容を紹介し、コメントを加えたい。

今年度大会について

これまで教育協議会の年次大会は3月下旬に開催してきた。学会もこれを踏襲し、明年3月最終週を予定している。会期は1日で、会員の研究報告も公募する。詳細は次号会報に掲載。